

1-4-1 ソーラー・デカスロン及びいわゆるポジティブエネルギー建築物の改良

CSTB 規格化・マーケティング・国際業務部長 ブルーノ・メジュレ

議長、ありがとうございます。今回の発表ですが、共同発表とさせていただきたいと思います。本年7月に、千葉大学さんと私どもCSTBとコラボしてお仕事をさせていただきましたので、その発表となります。

私自身の発表は2部構成になっています。まずはベルサイユで行われました大会の情景を映像でご紹介することから始めたいと思います。大会の概要をご説明してから、その後になが仲間でございます千葉大学の方のご発表へと移りたいと思います。(映像)

1-4-1 資料スライド2

長々とお話をさせていただくよりも、このような映像の方がデカスロンとは何かということがよくお分かりいただけたのではないかと思います。まず歴史的にどういった経緯で、この大会が行われているかについてお話ししたいと思います。このソーラー・デカスロンはアメリカのエネギー省が最初に企画しました。2002年に始まり、以降は、2年に1回アメリカで開催されました。その後、大会は、アメリカだけではなく、他の国々にも広がり、ヨーロッパや中国でも開催されるようになりました。

スライド3

2010年と2012年の大会はマドリッドで続けて行われ、2012年の大会では、「カノペア」と呼ばれる住宅を出展したローヌ＝アルプ地方のフランスチームが優勝しました。

スライド4～5

そして、今年、2014年、ヨーロッパでは3回目となる大会が、フランスのベルサイユで行われました。太陽王ともいわれるルイ14世が建造した宮殿の庭園で行われました。

スライド6

全部で27のプロトタイプと呼ばれる試作品が出典され、そのうちの20件が大会のコンペに参加しました。ご覧いただいた映像でもお分かりいただけるように、模型ではなく本物の家を建てて街区をしっかりと構成していることがおわかりいただけると思います。目標(テーマ)は、省エネ/ポジティブエネルギー建築物です。

スライド7

デカというのは10を示しており、「デカスロン」は10種競技という意味です。競技種目はこちらです。10種目を五つの大きなテーマでまとめてあり、そのうちの 하나가建築、次にエネルギー、快適性、社会経済性、そして戦略性となっています。種目別に、国際審査団によって審議される種目と、2週間の大会期間中連続的に測定(モニタリング)を行いそのデータを競うといった種目もあります。

スライド8

今回は、3大陸16カ国からの参加があり、まさに国際大会とすることができました。

スライド9

実は、最初に選ばれた20のチームの中で参加を放棄するチームが出た場合の補欠チームのウェイトングリストもございましたが、どこのチームも棄権しなかったため、補欠チームは参加することはできませんでした。

スライド10

主催者といたしましては、多種多様なプロジェクトが提案され、大変満足のいく大会となりました。まず、参加チームを、「大型自然災害の危険」、「現代の人口問題」、「エネルギーによる旧欧州の再活性化」及び「新たなタイプの住宅の開発」の四つの大きなカテゴリーにグループ分けしました。日本チームは、「大型自然災害の危険」のグループでの参加ということで、皆様も納得されていると思います。

スライド11～13

私の発表はなるべく短くして、千葉大学のご発表に移らせていただきたいと思いますが、終わる前に幾つかのプロトタイプを写真と併せてご紹介していきたいと思います。まずは受賞作からご覧いただきましょう。こちらは、イタリアチームが提案している、社会において恵まれない人のための共同住宅です。

スライド14～17

ナント（フランス）のチームが提案したのは、工場等のリノベーションプロジェクトです。

スライド18～21

また、オランダチームは、アーバン・アグリカルチャーということで、街の中での農業をテーマにしています。また、長屋のような家のリノベーションの提案を行いました。

スライド22

ドイツのチームは、屋上のレトロフィット（既存の建物の屋上に設置する付加的なモジュール）を提案しました。

スライド24

フランスとチリの共同チームは、大災害直後の避難住宅についての提案を打ち出しました。

スライド30～31

日本の千葉大学さんの提案がこちらです。このご説明は後ほどしていただくので、私からはいたしません。

スライド32

こちらの、アメリカとドイツの共同チームのプロトタイプは、外皮が布でできているんですよ。